

# ペット特集



そばにいて、その仕草を見ているだけで心が和む。そんな人間に一番近い友達である犬、猫について、今回は特集してみました。上手な飼い方、楽しく一緒に過ごす方法などぜひ参考にしてください。

## ■犬・猫をペットにするために

犬は番犬から始まり牧羊犬、猟犬など数々の作業犬として人間に貢献してきました。それが次第に人間の愛玩用ペットとして愛され、目的に合わせて改良されて、今では明確に分類するのが不可能なほど種類が多くなってきました。

しかし、基本的に犬は人間との友情関係を大切にす動物、人間の愛情ある接し方が必要です。

一方猫は独立心が強く、一見わがままでしつけが難しいように見えますが、本来はきれいな好きですので、飼い主が厳しい態度でやっつて良い事と悪い事を教えれば、早くしつけることができます。

## ■犬の飼い方

犬を飼う前に、どんな種類にするか、誰が世話やしつけをするかを家族で話し合っておく必要があります。

また子犬は、生後8〜10週間くらいまで、親や兄弟とともに生活していた犬がベスト。ペットショップで買う時は、目が輝いており目ヤニや皮膚病などを患っていないことを確認してください。

## ●しつけの第一歩は目から

犬は主従関係のはつきりした動物なので、飼ったあと犬に飼い主がボスであるということを認識させなければいけません。そのため「お手」「おすわり」の指示を出す時、しつかり犬の目を見ることが心がけてください。目を見る訓練は、犬が集中できる屋内が良いでしょう。

## ●グッズ選びの基本

最近では、ブランド物やキャラクターの付いたグッズが登場してきましたが、基本はまず犬の居場所であるベッドを整えます。中にタオルや毛布などを敷いて



あげましょう。もちろん、トイレも必要、トイレ専用のシートもありませんが、新聞紙でも構いません。

## ●食事はバランスを考へて

人間の余った食事を与えることがありますが、人間の味付けは犬にとつてちよつときつい、できれば犬の成長に合わせて、ドライフーズや半生タイプのもので与えてください。

## ●気持ちの良いブラッシング

ブラッシングは大切な作業。汚れを落とし、皮膚を刺激することによって血行が良くなり、毛づやが美しくなります。シャンプーは刺激の少ないものを選び、最低2週間は間隔をあける必要があります。

## ■猫の飼い方

猫には長毛種、短毛種の2種類がありますが、一般的に長毛種は泣き声が控えめでおとなしいのですが、手入れに手間がかかります。一方短毛種は、手入れは楽ですが活発な猫が多いので、部屋で飼う時は運動する道具や一緒に遊んであげる時間が必要です。買う際は、毛並みや毛づやが良いこと、目ヤニがなく瞳が輝いていること、耳が汚れていたり鼻水が出ていない、お尻は乾燥しているといった点をチェックしましょう。

## ●トイレは早く覚える

猫は、犬のように作業や音を覚えることはできません。しかし、猫は基本的にきれいな好きなので、トイレは犬より先に覚えます。まず猫用トイレを部屋の隅の隅の猫が落ち着ける場所に置き、鼻をクワンクワン鳴らし落ち着きがなくなったらトイレに連れていきませす。この時上手にできたら褒め、これを数回続ければちゃんとトイレは覚えます。

## ■ペットの健康を考へる

ペットが病気やけがをした時、言葉を話してくれたらなあーと願うほど悲しくなるものです。動物は、人間の目にも病気が分かる



るような状態の時、すでに悪い症状の場合が多いものです。日頃から定期検査を行なっておくとよいでしょう。定期検査は、問診、身体、血液、尿、便、レントゲンの検査が行なわれます。

動物病院は、費用がかさむと思っっているかもしれませんが、健康で異常がなければ費用はそれほどかかりません。定期的に行なっておけば発見も早く、大事に至ることもなくなります。

## ■ペットのしぐさ

犬は喜怒哀楽の表現が上手。嬉しい時、こわい時、態度や鳴き声などで飼い主にわかりやすく伝えてくれます。

一方猫は、人間に媚びることなく生きてるように見えますが、シツカリ観察すると色々なサインを送っています。甘えたい時は足にスリスリしたり、退屈な時やこわい時は表情に表わし、怒った時は背中を立ってしっぽをせわしなく振ります。

こんな姿が人間の心を癒し、ペットブームを呼んでいるのかもしれない。

写真提供

